

県立海洋高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】(令和7年度)

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ、表現することができるようとする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働きかせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 基礎的・基本的な知識や学力を確実に習得し、「総合的な探究の時間」をとおして、生きて働く知識・技能を身につける。
- (2) 人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」を育むとともに、未知の状況にも対応できる能力を育成する。
- (3) 社会の一員として不可欠な、規範意識、コミュニケーション能力、社会性、倫理観を育み、地域に信頼され、愛される地域産業の担い手を育成する。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・基礎的・基本的な知識や技能を応用させ、地域や社会の人・もの・ことに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えることができたか。
- ・パワーポイント等を利用して、相手に伝わるために何が必要かを考えたプレゼンテーション能力が身に付いたか。
- ・社会の一員として不可欠な、規範意識、コミュニケーション能力、社会性、倫理観が育ち、地域に信頼され、愛される地域産業の担い手となったか。

生徒の実態

- ・学力上位と下位の幅が大きく、課題や問題点について、自ら調べたり、考えをまとめたりすることが苦手な生徒が多い。
- ・入学直後は、海洋・水産に関する意識が低く、将来についてあまりよく考えていない生徒もいる。
- ・規範意識、コミュニケーション能力、社会性、倫理観に乏しい生徒が目立つ。
- ・自己肯定感が低く、自分に自信のない生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・教育相談・スクールカウンセラーの活用
- ・学年・クラス担任・各教科担任との情報を共有
- ・家庭・出身中学校・市町村など各関係機関と連携
- ・特別支援コーディネーターとの連携

目指す生徒の姿

- ・「自主協調」「責任」「勤勉」「礼儀」「忍耐」を備えることにより、地域に信頼され、地域社会に必要とされる人材となる。
- ・自己肯定感を高め、自信をもって社会のために働くことができる、心身ともに健全な海洋技術者となる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

1学年

○「自分自身」について

- (1) 知識・技能：自ら判断することの意味について考え、普段の生活で、自分の責任で物事を決定しているかを振り返る。
- (2) 思考力・判断力・表現力：話し合ったことを基に、自分で「決める」ということについて、さまざまな側面から考えられる。
- (3) 学びに向かう力：自分でよく考えて判断することの大切さを理解し、他者の考えに迎合せず、自分の責任で物事を決定していくとしている。

○「人との関わり」について

- (1) 知識・技能：普段の生活で、相手の気持ちを考えようとしているかを振り返る。
- (2) 思考力・判断力・表現力：互いに理解し合う姿勢をもってコミュニケーションを取ることについて、さまざまな見方があることに気づく。
- (3) 学びに向かう人間性：相手の考え方を理解し、認めることの大切さを理解して、コミュニケーションを取っていくとしている。

○「集団や社会とのかかわり」について

- (1) 知識・技能：普段の生活で、学校や集団をよりよくするために行動しているかを振り返る。
- (2) 思考力・判断力・表現力：よりよい学校や集団をつくりていこうとするときに、人それぞれの思いや行動があるということに気づく。
- (3) 学びに向かう人間性：学校や集団をよりよくするために、自らも何をすべきか考え、行動していくとしている。

○「命と自然、崇高なものとの関わり」について

- (1) 知識・技能：普段の生活で、生命や自然、崇高な行動のことを考えて生活しているかを振り返る。
- (2) 思考力・判断力・表現力：話し合いを基に、生き方についてさまざまな側面から考えている。
- (3) 学びに向かう人間性：これから的生活の中で、「生きる」ということや命の大切さについて考え、生きていこうとしている。

○「SNSの使い方」について

- (1) 知識・技能：インターネット上の書き込みの経験について振り返る。
- (2) 思考力・判断力・表現力：見方や考え方方が異なる人と関わるとはどういうことかについて考える。
- (3) 学びに向かう人間性：異なるものの見方や考え方をもつ人と関わるとき、大切なことはどんなことかを考える。

○「インターネットリテラシー」について

- (1) 知識・技能：インターネット上の画像や動画・音楽などには著作権があり、無断でダウンロード・アップロードした場合罪に問われることがあることを理解する。
- (2) 思考力・判断力・表現力：インターネットは便利だが、ウイルスやスパイウェアなど個人情報を抜き取り犯罪に利用される危険があることをふまえ判断できる。

- (3) 学びに向かう人間性：インターネットに潜む危険を理解し、正しい使い方を考えることができるようになる。

テーマ学習

「社会問題・環境問題について調査・研究・考察し、それと関連させて社会の中で自己の在り方生き方について、考えを深める。」

- (1) 知識・技能：幅広い教養と世界・社会の状況の変化やその課題を発見・解決するための知識・技能を獲得する。
- (2) 思考力・判断力・表現力：物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、新しい価値を生み出すことができる。思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝えることができる。
- (3) 学びに向かう人間性：自らの行動を振り返り改善しようとする意思を持っている。多様な他者とのコミュニケーションをとり、仲間と協力・協議しながら互いに高められる行動がとれる。高い志を持って将来の生き方や地域・国内外の未来を真剣に考えることができる。

3学年

- ・課題研究の2単位で総合的な探究の時間の内容を代替

学習活動、指導方法等

1学年

- ・県から配布された資料等を活用する。
- ・水産高校ならではの体験乗船やカッターレース等の行事を体験することで、集団とのかかわりについて学ぶ。
- ・「水産海洋基礎」の教科書にある環境問題や国際問題、日本の伝統文化、「海洋情報技術」で取り扱う情報モラルなどの内容を発展させ、グループごとに時事ニュースなどから社会問題等について、ICT機器を活用して情報をまとめ、グループ内で議論した内容を発表する。

生徒の探究活動の形態：グループ

3学年

- 海洋技術科、海洋食品科、海洋産業科の3科とも、4～6のグループに分かれて各学科の学習内容に関連する研究テーマを見つけて1年間かけて研究し、発表を行う。

生徒の探究活動の形態：グループ

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・授業担当者会議（月1回）・・・授業担当者と学年主任、又は学科主任で指導方法や評価観点、進捗状況について適宜情報を共有する。
- ・道徳校内研修会（2学期）・・・豊かな心育成コーディネーターを中心に研修会を実施する。
- ・課題研究発表会（3学期）・・・3年次に課題研究で代替している。各学科とも1月に1年間研究した内容を発表する。